



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2017年2月12日) 9:30~12:00 (晴)

参加者 一般:3名(うち子ども1名)

指導員:2名

テーマ 「冬越しの草を見てみよう」

前日の雪が残り、路面が凍結している場所もあるような寒い秀、参加者は5名と少な目でした。

テーマは冬の定番の一つのロゼットです。草が寒さに耐えて地面に張り付き、かつ、日光を受けるためバラの花のように葉を広げている状態がロゼットと呼ばれています。

堤防の散策路を歩き始めてすぐにタンポポとブタナがありました。ロゼットを形成する葉の形状はよく似ていますが、ブタナはタンポポより葉が固く、毛が多いので触ってみると違いが分かります。近くではノゲシ、オニタビラコ、ウラジロチチコグサ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギクなどキク科のロゼットがたくさん見られました。

赤い色をしたスイバのロゼットも目立ちました。タンポポやブタナにも紫色を帯びた葉が見られました。気温が下がると葉緑素の一部がアントシアンに変わってこのような色になるものと考えられます。春になると、この赤い色の葉が緑色に変化するのか、この赤い葉は枯れて新しく緑の葉が伸びてくるのか話題になりました。春まで葉の色の変化をじっくり見ていきたいと思います。

ロゼットのほかには、動き始めたナナホシテントウ、桜の枝に付いていたイラガの繭、水路の竹筒の中にいたアメリカザリガニなどを観察しました。

また、12月に見つけた川原のキツネの巣穴の周りには、新しく掘りだされた砂や足跡があり、まだ使われていることが確認されました。(報告:齋竹)



(観察会のようす)

<その他観察できたもの>

ロゼット:コウゾリナ、オニノゲシ、ヒメジョオン、ギシギシ

花:ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ニホンタンポポ

鳥:トビ、ノスリ、ツグミ、ジョウビタキ、シメ、コゲラ、ヒヨドリ、キジバト、メジロ、シジュウカラ、エナガ、カシラダカ、カワラヒワ、ハクセキレイ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジ(声)



(ウラジロチチコグサ)



(スイバ)



(ブタナ)